

情報医療における医薬品データベースの活用

～ 同種同効薬検索システムの研究・開発～

鈴木 聡子¹⁾、栗原 輝子²⁾、春名 千寿子²⁾、金子 貴俊²⁾、簾 貴士¹⁾、櫻田 大也¹⁾、
佐藤 信範¹⁾、上田 志朗¹⁾

1) 千葉大学大学院薬学研究院医薬品情報学研究室

2) データインデックス株式会社

【目的】医療現場における代替薬の検索の際に、日本標準商品分類番号による分類では、同一薬効の薬剤、例えばCa拮抗剤の塩酸ニカルジピンは血圧降下剤の214番に、ニフェジピンは血管拡張剤の217番に分類され、多種の薬効が「その他」で包括されて分類されているなど、必要十分な検索ができないことが問題となっている。そこで、これらの問題の補完に各種書籍等を用いた検索が実施されているが、書籍等での検索は多くの時間を要する反面、網羅性が低く横断的検索には不向きである。そこで、データベース(以下、DB)を用いた情報技術を導入することで、迅速且つ網羅性の高い検索が可能となるものと考え、同種同効薬DBの構築を試みた。

【方法】全ての医療用医薬品の添付文書から配合剤も対象とした有効成分3,647件を抽出し、抽出した有効成分を約18,000品目の個別医薬品コード、商品名、規格、薬価などの基本情報と関連付け、抽出した有効成分について階層構造による同種同効薬分類の割り付けを行った。このDBを基に、1)代替薬検索、2)薬効からの薬品検索、3)同効薬チェックの3つの機能を持つ検索システムを作成した。

【結果・考察】安全性・有効性に基づく治療と医療経済の両方を鑑みた処方を実施するには、基礎となる情報提供が必要不可欠である。一方で、膨大な医薬品情報から必要な情報を的確に得るためには、情報技術の利用が不可避となっている。今回我々の構築したDBによる1)代替薬検索、2)薬効からの薬品検索、3)同効薬チェックシステムを用いることにより、現在多くの臨床現場で問題となっている、先発医薬品から後発医薬品への切り替え時の代替薬検索や、同一患者への同種同効薬処方の重複監査などに対応できるものと考えられる。